

柳津町上佐波「毘沙門堂」「薬師堂」 「八幡菩薩堂」に保管されている仏像

清水 眞澄*・川瀬 善忠

A Study of Buddhist Images Preserved in Bishamondo, Yakusido and Hachiman Bosatsudo in Kamisaba, Yanaizucho.

Mazumi SHIMIZU・Zenchu KAWASE

1. はじめに

羽島郡柳津町上佐波の旧自然堤防上と考えられる場所に、古くから佐波3カ村の住民の厚い信仰で守られてきた「毘沙門堂」「薬師堂」「八幡菩薩堂」がある。付近の民家より一段と高い石垣の上に「毘沙門堂」「薬師堂」は建てられており、特に「毘沙門堂」内に安置されている毘沙門天に対する信仰は厚く、柳津町史佐波編でも次のように記している。

『明治12年11月調査内務省へ提出の写「毘沙門天は往古より存置の毘沙門天にして村民拳って氏神の如く尊信す。信徒老千六百二十五人で、毘沙門天の祭礼は旧暦10月17日行い、佐波三カ村の小祭として、村中一般の休日なり』。

3つの堂の中には毘沙門天像以外に多くの仏像や仏教美術品が保管されていることが知られていたが、それぞれの仏像や資料についての詳細な調査はなされていなかった。近年「毘沙門堂」及び「薬師堂」の傷みがひどく、町内会、氏子を中心として建設委員会が結成され、平成4年度両堂を解体し新築する運びとなった。それを契機に仏像を中心とする調査を行う機会を得、平成3年10月22日、11月4日の両日にわたって調査を行った。ここでは3つの堂の中に保管されている仏像の調査結果を報告する。

2. 仏像調査結果

(1) 木造阿弥陀如来坐像 〈薬師堂内安置〉

〔法量〕 単位cm

像高	33.5	面長	12.0	頭頂～顎	7.5
面幅	7.7	耳張	8.5	面奥	9.4
肘張	22.1	袖張	—	胸厚	10.2
腹厚	11.2	膝張	30.0	膝高(左)	6.0
同(右)	5.8	台座高	23.0	同幅	49.2
同奥	33.2				

〔構造・形状・時代等〕

一木造り、彫眼、肉身漆箔、着衣褐色漆塗り、両体側材、脚材、両手首より先別材。

肩の肉付が豊かであり、結跏趺坐する脚の形と衣文に、中世末期の形の名残が見られる。

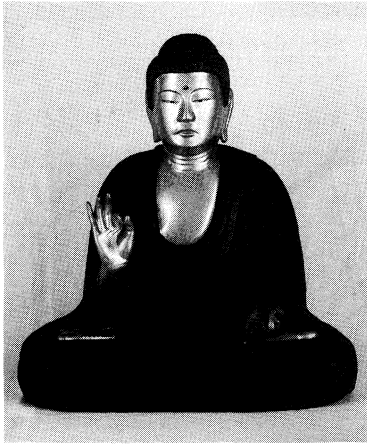
台座心棒に天和2年(1682)再興の墨書銘があり、この像の造立時期を示すものと思われる。なお、像表面の漆箔と漆及び台座の心棒以外は新補。

〔台座心棒墨書銘〕

「天和貳年／壬戌 七月十一日／佐波村／八幡宮再興」



写真1 左薬師堂 右毘沙門堂
(羽島郡柳津町上佐波)



〈薬師堂安置〉

写真2 木造阿弥陀如来坐像 正面

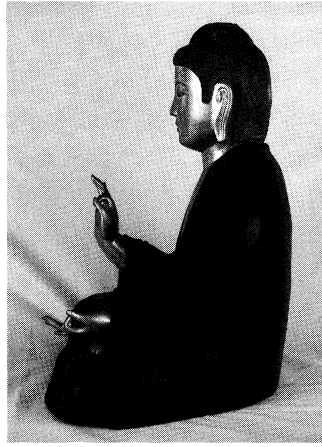


写真3 木造阿弥陀如来坐像 側面

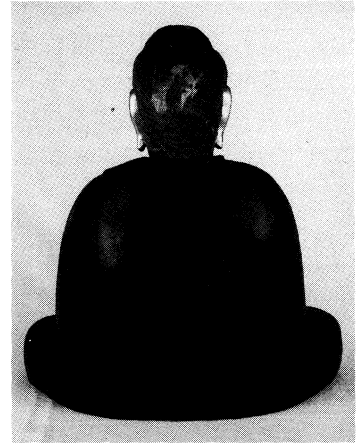


写真4 木造阿弥陀如来 背面

(2) 木造阿弥陀如来坐像 〈八幡菩薩堂安置〉

〔法量〕

像高	49.0	面長	9.0	頭頂～顎	15.9	面幅	9.9
耳張	12.1	面奥	12.9	肘張	28.9	袖張	—
胸厚	13.1	腹厚	15.0	膝張	38.3	膝高（左）	6.6
同（右）	6.4	台座高	40.0	同幅	51.0	同奥	51.0

〔構造・数状・時代等〕

寄木造り，彫眼，漆箔。

構造は頭を前後矧ぎとし，首の三道下で体部に差し込んでいる。体は前後左右の四材矧ぎとし，脚材，左右腰の三角材を寄せる。藤原時代の様式を手本とした江戸時代の作。

台座心棒の墨書銘にある天和2年（1682）は造立年をほぼ示すものであろう。

近年すべて表面の漆箔を補習している。

〔台座心棒墨書銘〕

「天和貳年／壬戌七月十一日／
佐波村／八幡宮再興」

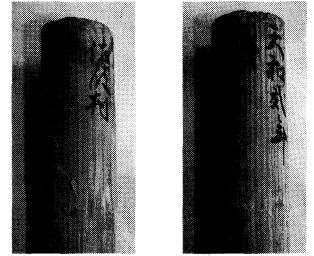
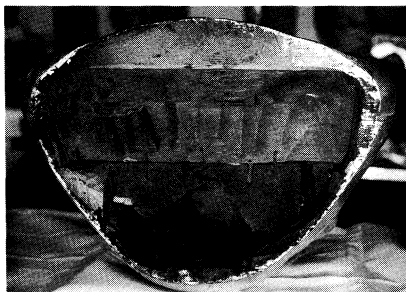
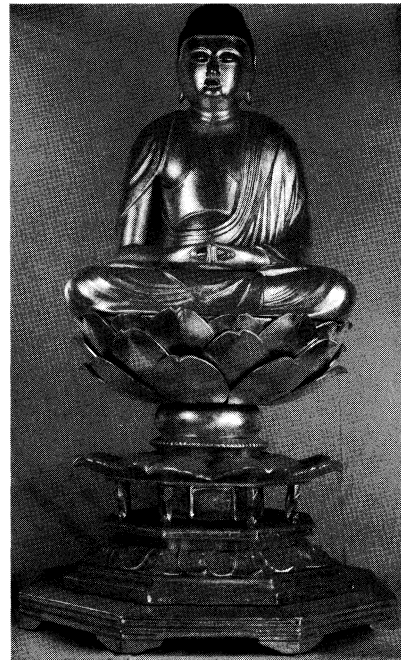


写真5 〈薬師堂安置〉
木造阿弥陀如来坐像
台座心棒墨書銘



〈八幡菩薩堂安置〉

写真6 木造阿弥陀如来坐像 裏面



〈八幡菩薩堂安置〉

写真7 木造阿弥陀如来坐像

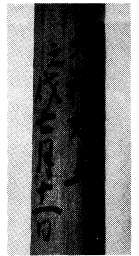
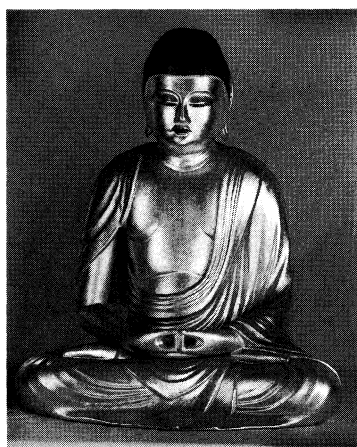


写真8
〈八幡菩薩堂
安置〉
木造阿弥陀如
来坐像台座心
棒墨書銘



〈八幡菩薩堂安置〉

写真9 木造阿弥陀如来坐像 正面

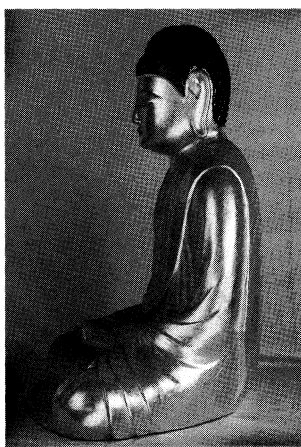


写真10 木造阿弥陀如来 側面

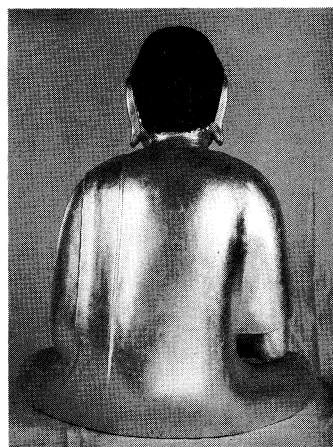


写真11 木造阿弥陀如来 背面

(3) 木造薬師如来立像

〔法量〕

像高	30.8	面長	3.9	頭頂～顎	5.8	面幅	3.6	耳張	4.2
面奥	4.7	肘張	9.4	袖張	9.7	胸厚	5.0	腹厚	5.6
台座高	17.5	同幅	19.0	同奥	18.0	光背高	46.0	同幅	19.5

〔構造・形状・時代等〕

一木造，彫眼，肉身金泥，着衣黒漆塗り。白毫と肉髻珠は水晶。肉髻が低く，顔には円味があり，厨子屋根の銘にある元禄7年（1694）に造立された可能性が高い。ただし，渡辺□□は厨子の作者であろう。像表面の金泥などは後補。



写真12 木造薬師如来立像



写真13 木造薬師如来立像 正面



写真14 木造薬師如来立像 側面

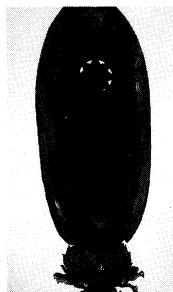
写真16
厨子屋根裏墨書銘

写真15 木造薬師如来立像 背面

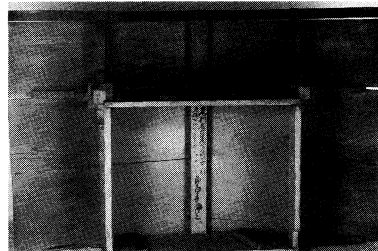


写真17 木造薬師如来立像厨子屋根裏

〔厨子屋根裏墨書銘〕

「尾州名古屋七〇町／三丁目／元禄七年戊七月四日／渡邊〇〇作之」

(4) 木造毘沙門天立像

〔法量〕

像高	41.4	面長	5.0	頭頂～顎	9.2
面幅	3.3	耳張	—	面奥	5.9
肘張	17.0	袖張	—	胸厚	7.3
腹厚	7.5	台座高	17.0	同幅	28.4
同奥	16.6				

写真18 木造毘沙門
天立像正面写真19 木造毘沙門
天立像側面写真20 木造毘沙門
天立像背面

写真21 木造毘沙門天立像

〔構造・形状・時代等〕

一木造り，玉眼，彩色。人形的な作例。（江戸時代末～近代の作。）

(5) 木造観音菩薩坐像

〔法量〕

像高	26.4	面長	5.3	頭頂～顎	11.5	面幅	4.5
耳張	6.1	面奥	—	肘張	13.0	袖張	—
胸厚	—	腹厚	—	膝張	17.4	膝長(左)	3.3
						(右)	3.2
				台座高	21.5	同幅	26.00
						同奥	18.0

〔構造・形状・時代等〕

寄木造り，玉眼，肉身金泥，着衣漆箔。宝髻が大きく丁寧な作である。厨子扉に刻まれている享保12年（1727）が造立時期と考えられる。

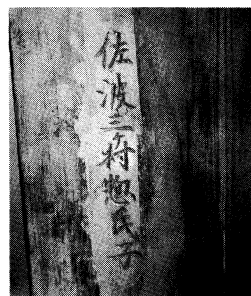
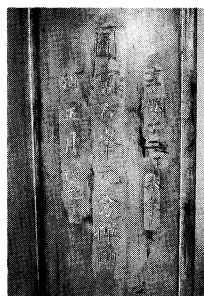
写真22 木造観音菩薩坐像
厨子左扉刻銘写真23 木造観音菩薩坐像
厨子右扉刻銘

写真24 木造観音菩薩坐像

〔厨子扉刻銘〕

左「享保十二丁未年／圓寂五峯元秀禅師學位／
閏正月初九日」

右「佐波三ヶ村惣氏子」

(6) 木造如意輪観音坐像・木造地藏菩薩立像
木造不動明王立像

〔法量〕

像高 如意輪観音像 12.0 地藏菩薩像 9.9

不動明王像 7.9

台座高 如意輪観音像 9.2 地藏菩薩像 7.8

不動明王像 6.5

〔構造・形状・時代等〕

3像とも一木造り，彫眼。如意輪観音像は肉身金泥，着衣素木で，
彫技が優れ，室町後期の作である。

地藏菩薩像は肉身金泥，着衣彩色，不動明王像は素木で厨子扉銘の享保11年（1726）が製作年代
と考えられる。この時期に，すでにあった如意輪観音像を中尊として厨子に納め，一具としたので
あろう。

〔厨子扉刻銘〕

左「濃州厚見郡佐波三箇村／八幡宮之為惣氏子再興仕」

右「享保十一丙午年十月 日／願主元秀石峯」



写真27 木造不動明王立像



写真28 木造地藏菩薩立像



写真29 木造如意輪観音坐像

(7) 木造天部立像

〔法量〕

像高 9.5

〔構造・形状・時代等〕

一木造り，彫眼，漆塗。
兜をかぶり，左手に宝塔を
もって右手を添え，袖を翻
して立つ珍しい形の像で，荘
嚴具の一部とも考えられる。
江戸時代の作。



写真30 木造天部立像

(8) 木造大黒天像

〔法量〕

像高 9.7 肘張 6.0

台坐高 2.9 同幅 6.6

同奥 7.3

〔構造・形状・時代等〕

一木造り，彫眼，黒漆
塗り。

台座（俵）別作
江戸時代の作。

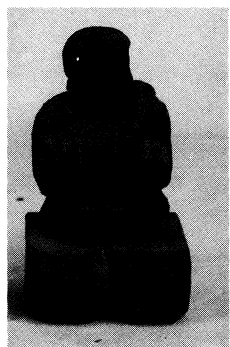


写真31 木造大黒天像

(9) 銅造誕生釈迦如来像

〔法量〕

像高 12.5

〔構造・形状・時代等〕

銅製の一鑄で仕上げている。

江戸時代の作。



写真32

銅造誕生釈迦如来像正面



写真33

銅造誕生釈迦如来像背面



写真34

銅造菩薩坐像正面

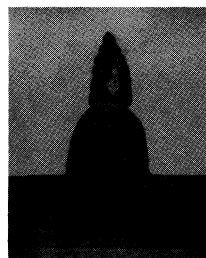


写真35

銅造菩薩坐像背面

(10) 銅造菩薩坐像

像高 5.6

〔構造・形状・時代等〕

銅製の一鑄で仕上げている。江戸時代の作。

合掌し、頭髪を渦巻き状とし尊名は不詳である。

(11) 木造天部像

〔法量〕

像高 26.5 台座高

5.1 同幅 18.5 同奥 11.5

〔構造・形状・時代等〕

一木造り、当初は彩色か。現状は素木。現在頭部と背・両手・足先などが欠失している。江戸時代の作。



写真36 木造天部像正面



写真37 木造天部像側面



写真38 木造天部像 背面

(12) 木造如意輪観音坐像

〔法量〕

像高 11.0 (宝髻欠) 面長 2.9 頭頂 3.6 面幅 2.7 耳張 3.0

面奥 3.4 台座高 5.6 同奥 8.0

〔構造・形状・時代等〕

一木造り、彫眼、当初は彩色か。現状は素木。像と台座、垂下する法衣はすべて共木。円味のあ
る顔の像で、衣文は表現が滑らかであり、背面も略していない。法衣は裾を両脇に垂下させている。
室町時代後半の作と考えられる。



写真39 木造如意輪観音坐像正面

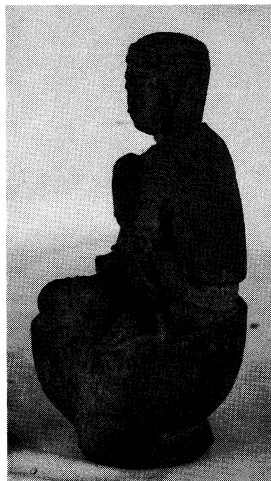


写真40 木造如意輪観音坐像側面

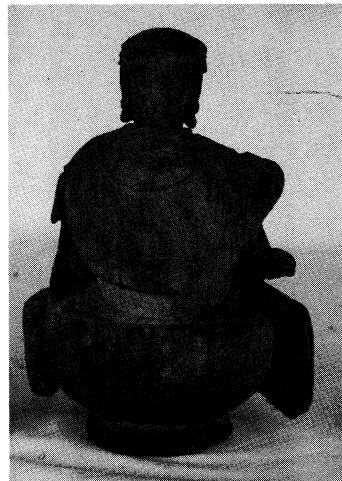


写真41 木造如意輪観音坐像背面

3. 調査の概要

毘沙門堂、薬師堂、八幡菩薩堂に保管されている14体の仏像を調査した結果、室町時代後期作の
如意輪観音像が2体知られ、江戸時代の年紀が厨子と台座にあり、そこに安置されている像は、ほ
ぼその年代と一致するものが5例6体見いだされた。

柳津町では町指定重要文化財として高桑慈恩寺の木造十一面観音菩薩坐像が知られているのみ
で、今回の調査による多数の仏像の確認は、毘沙門堂だけでなく、柳津町あるいは岐阜県の歴史、
及び文化財にとって、大きな意味があることと思われる。

年紀のあるものは次の通りである。

- 天和2年(1682) 木造阿弥陀如来坐像 (1)
- 天和2年(1682) 木造阿弥陀如来坐像 (2)
- 元禄7年(1694) 木造薬師如来立像 (3)
- 享保11年(1726) 木造地藏菩薩立像、木造不動明王立像 (6)
- 享保12年(1727) 木造観音菩薩坐像 (4)

(1)と(2)の阿弥陀如来像は、両像とも近年全面的に補修されているため、直ちに台座心棒の墨書銘
の年紀と一致させることははばかれるが、像容と一部構造からみてほぼ同じ頃の作として大過な
いと思われる。したがって両像は八幡宮¹⁾再興に際して、同時期に造立されたものであろう。

(6)の地藏菩薩・不動明王像と(4)の観音菩薩像は、ともに石峯元秀が願主として造立したものであ
るが、本毘沙門堂に伝えられる紙本墨画鯉図2幅、同白衣観音図1幅、紙本墨書3幅の裏面にも、
享保6年(1721)黄檗沙門堂元秀が八幡宮に奉納した6幅対のうちである旨の墨書があり、この頃
黄檗宗の僧石峯元秀と密接な関係があったことが知られる。

今回の調査に際して、毘沙門堂再建建設委員長の吉村隆雄氏、同副委員長鷺見正一氏、一番地の
関谷英治、二番地の吉村徳造両町内会長外多くの建設委員の皆様にご協力いただいた。ここに厚く
お礼を申し上げる。

毘沙門堂・薬師堂に保管されている墨画及び墨書

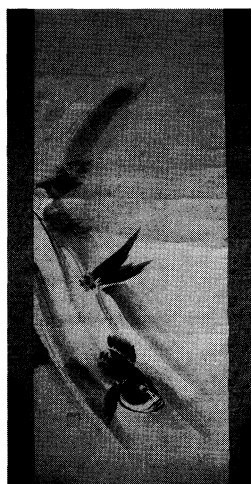


写真42 紙本墨画「鯉の図」 縦109cm 横41.5cm

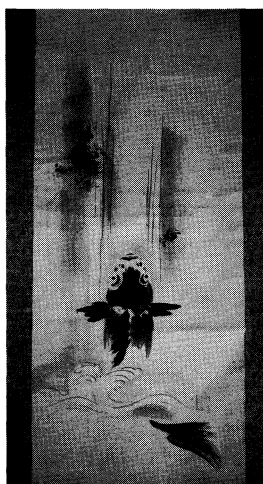


写真43 紙本墨画「鯉の図」 縦109cm 横41.5cm

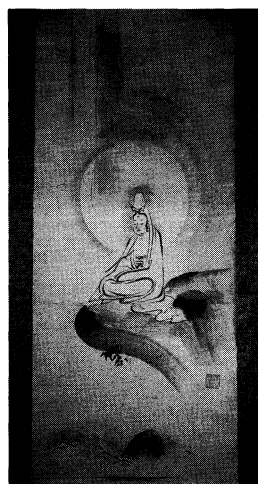


写真44 紙本墨画「白衣観音図」 縦109cm 横41.5cm



写真45 紙本墨書高泉筆 縦124.5cm 横41.5cm



写真46 紙本墨書高泉筆 縦124.5cm 横41.5cm



写真47 紙本墨書高泉筆 縦124.5cm 横41.5cm



写真48 写真42～写真47までの墨画及び墨書の裏に書かれている墨書

注1) 佐波字村中に鎮座俗に佐波惣社という。祭神応神天皇，例祭9月15日，創建年月不詳



写真49 薬師堂全景（1992，3撮影）

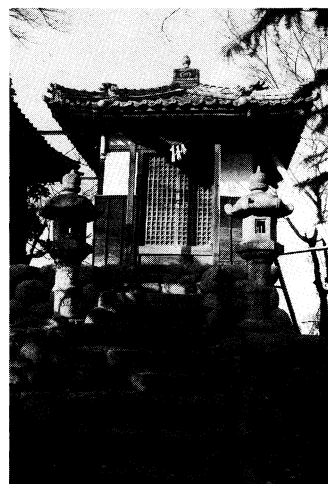


写真50 毘沙門堂全景（同）